

III 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業について紹介する。感染症発生動向調査のように通常年単位で報告する事業は、年単位の集計結果を記載した。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力のもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図 III-1-1)。

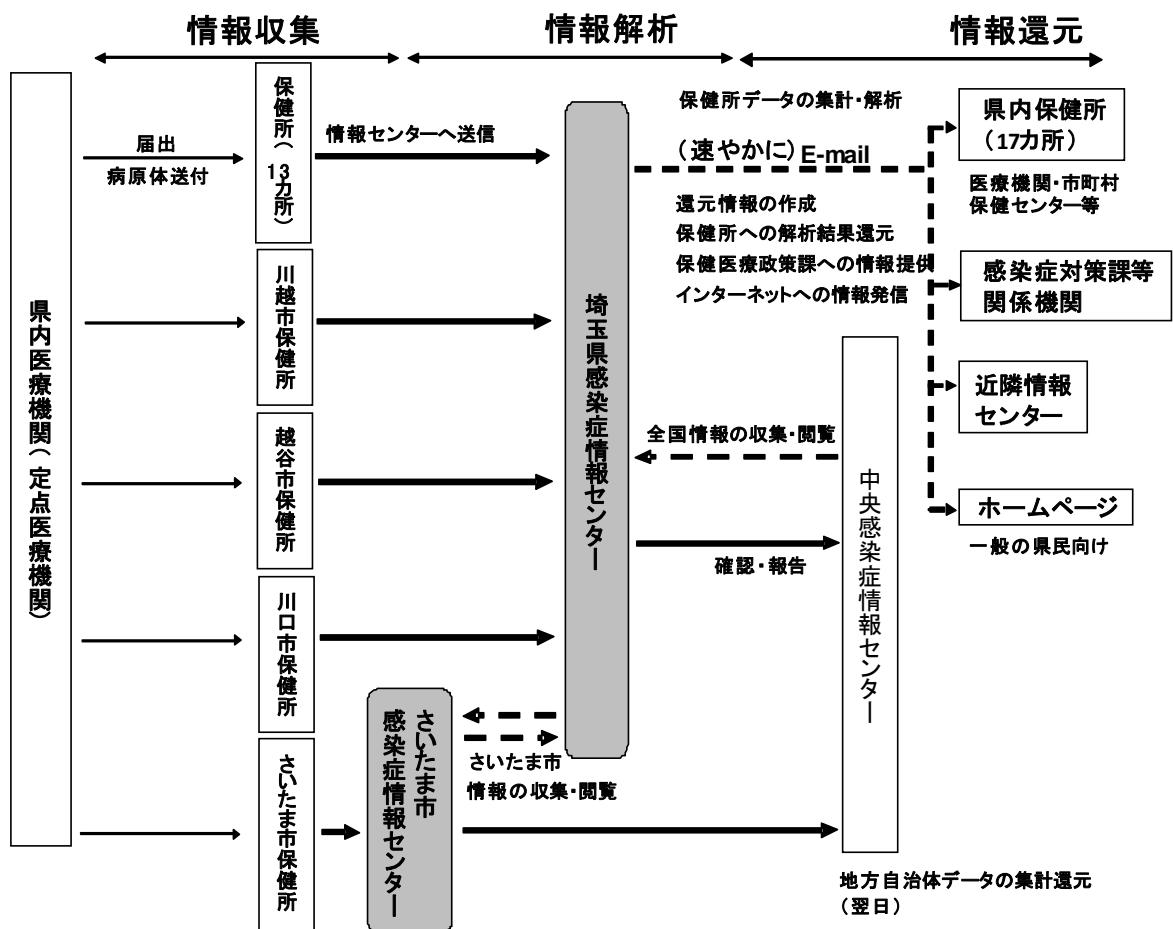


図 III-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

令和 3 年の発生動向調査では、新型コロナウイルス感染症については、「新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令(令和 2 年政令第 11 号)」により指定感染症に指定されていたが、「感染症法」の一部改正により、令和 3 年 2 月 13 日から「新型インフルエンザ等感染症」に追加された。また、新型コロナウイルス感染症以外では、感染症法第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正によりマラリア、アメーバ赤痢及び百日咳の届出基準の項目に新たな検査方法が追加(令和 3 年 6 月 3 日施行)され、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)の発生届に新たな記載項目が追加(令和 3 年 9 月 30 日施行)された。

本資料では、全数把握疾患は診断日が令和 3 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は第 1 週(令和 3 年 1 月 4 日～令和 3 年 1 月 10 日)から 52 週(令和 3 年 12 月 27 日～令和 4 年 1 月 2 日)まで、月単位報告疾患は令和 3 年 1 月から 12 月までの報告を集計し、県内の動向をまとめた。新型コロナウイルス感染症を除く疾患は従来と同じく NESID(感染症サーベイランスシステム)から令和 4 年 3 月に収集した情報を用いた。全数把握疾患の病原体については、令和 3 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。また、新型コロナウイルス感染症は県感染症対策課で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については令和 4 年 4 月時点での暫定値として、概要をまとめた。

(1) 患者情報

a. 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに届出)は 7 日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(a) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象

となるが、令和3年は疑似症を含め届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

二類感染症は、結核 834 人の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

表Ⅲ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾患名	埼玉県		
		令和3年	令和2年	令和元年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	834	891	1,243
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	0	6	6
	腸管出血性大腸菌感染症	136	95	152
	腸チフス	2	1	1
	パラチフス	0	0	4

結核は、男性 470 人、女性 364 人の計 834 人の届出があり、前年の 891 人と比べ減少した。症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布し、70 歳代が最も多く、60 歳以上が 496 人で 59.5%を占めた。類型別では患者 592 人(感染症死亡者の死体 1 例を含む)、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)242 人の届出があり、患者は前年の 641 人より減少した。男性では、患者が 335 人(感染症死亡者の死体 1 例を含む)、無症状病原体保有者が 135 人で、女性では、患者が 257 人、無症状病原体保有者が 107 人であった。男女ともに疑似症患者の届出はなかった。年齢階級別では、男性は 60 歳以上が 62.6%を占め、70 歳代、80 歳代の順に多く、女性は 60 歳以上が 55.5%を占め、80 歳代、70 歳代の順に多かった。また、男性患者の 60 歳以上が占める割合は 65.4%、女性患者では 62.6%であった(表Ⅲ-1-2)

表Ⅲ-1-2 結核 年齢階級別届出数(令和3年)

年齢階級	男性			女性			総数
	患者	無症状病原体保有者	小計	患者	無症状病原体保有者	小計	
10歳未満	-	11	11	-	7	7	18
10歳代	4	2	6	6	2	8	14
20歳代	26	16	42	31	9	40	82
30歳代	9	3	12	22	11	33	45
40歳代	26	13	39	15	18	33	72
50歳代	51	15	66	22	19	41	107
60歳代	38	24	62	16	10	26	88
70歳代	78*	33	111	52	15	67	178
80歳代	80	16	96	61	12	73	169
90歳以上	23	2	25	32	4	36	61
合計	335	135	470	257	107	364	834
割合	40.2%	16.2%	56.4%	30.8%	12.8%	43.6%	100.0%

* 感染症死亡者の死体1例を含む

(-0)

(b) 三類感染症

三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 136 人、腸チフス 2 人の計 138 人の届出があった(表Ⅲ-1-1)。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性 62 人、女性 74 人の計 136 人の届出があり、前年の 95 人より増加した。症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布した。年齢階級別では、20 歳代、10 歳未満、30 歳代の順に多かった。類型別では、患者 82 人、無症状病原体保有者 54 人で、患者が全体の 60.3% を占め、前年の 73.7% と比べ減少した(表Ⅲ-1-3)。O 血清型は、O26 が 61 人と最も多く、次いで多かったのは O157 が 41 人で、O157 と O26 の全体に占める割合はそれぞれ 30.1% と 44.9% であった。また、O157 の届出数は過去 5 年で最も少なかった。年齢階級別では、O157 の検出が最も多かったのは 20 歳代、O26 の検出が最も多かったのは 10 歳未満であった。その他の血清型は O156 が 9 人、O103、O111 が各 4 人、O5 が 3 人、O177 が 2 人、O8、O21、O54、O76、O130、O145、O166、O170、O183 が各 1 人、O91 及び O115 の同時検出が 1 人、その他に不明が 2 人であった。例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 58 人で、過去 5 年の中で最も少なかった。患者 82 人の症状は、水様性下痢 66 人、腹痛が 50 人、血便 40 人、発熱 16 人、嘔吐 7 人、急性腎不全 1 人で、溶血性尿毒症症候群(HUS)の発症者は認められなかった。

表Ⅲ-1-3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数(令和3年)

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	32	17	15	20	12	2	29	1
10歳代	12	6	6	9	3	6	3	3
20歳代	37	17	20	26	11	15	11	11
30歳代	23	12	11	8	15	5	11	7
40歳代	7	2	5	3	4	2	1	4
50歳代	10	1	9	6	4	4	2	4
60歳代	5	4	1	2	3	2	2	1
70歳代	7	2	5	5	2	3	2	2
80歳以上	3	1	2	3	-	2	-	1
合計	136	62	74	82	54	41	61	34
割合	100.0%	45.6%	54.4%	60.3%	39.7%	30.1%	44.9%	25.0%

(-0)

腸チフスは、11月に男性40歳代1人、12月に男性10歳未満1人の計2人の届出があり、前年の1人を上回った。共に、類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は前者がインド、後者がバングラデシュであった。

(c) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎36人、A型肝炎2人、つつが虫病3人、マラリア2人、レジオネラ症99人、レプトスピラ症1人の計143人の届出があった(表Ⅲ-1-4)。

E型肝炎は、男性26人、女性10人の計36人の届出があり、前年の28人より増加した。症例の年齢は20歳代から80歳代に分布し、50歳代、40歳代、60歳代の順に多かった。類型は患者が29人、無症状病原体保有者が7人で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が6人、PCR法による病原体遺伝子の検出のみが8人、血清IgA抗体の検出のみが21人、血清IgM抗体の検出のみが1人であった。推定感染経路は経口感染16人、不明20人で、推定感染地域は国内28人、不明8人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の内6人は献血により探知された症例であった。

A型肝炎は、9月に男性70歳代1人、10月に女性60歳代1人の計2人の届出があり、前年の4人を下回った。共に類型は患者で、診断方法は血清IgM抗体の検出であった。推定感染経路は、共に不明で、推定感染地域は前者が国内、後者が不明であった。また、ワクチン接種歴は、共に不明であった。

つつが虫病は、男性 2 人、女性 1 人の計 3 人の届出があり、前年の 2 人を上回った。症例の年齢は 70 歳代及び 80 歳代で、診断方法は全て間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清 IgM 抗体の検出であった。推定感染地域は国内が 2 人(県内 1 人、県外 1 人)、不明が 1 人であった。

表Ⅲ-1-4 四類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和3年	令和2年	令和元年		令和3年	令和2年	令和元年
E型肝炎	36	28	21	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	2	4	14	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	1
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	0	1	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	1
ジカウイルス感染症	0	1	0	マラリア	2	0	2
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	1
チクングニア熱	0	0	3	レジオネラ症	99	107	117
つつが虫病	3	2	1	レプトスピラ症	1	0	1
デング熱	0	2	16	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

前年発生が無かったマラリアは、11月に男性 50 歳代 1 人、12月に女性 30 歳代 1 人の計 2 人の届出があった。共に、病型は熱帯熱で、診断方法は、血液検体の鏡検による病原体の検出であった。推定感染地域は前者がナイジェリア、後者がコートジボワールであった。

レジオネラ症は、男性 84 人、女性 15 人の計 99 人の届出があり、前年の 107 人より減少した。症例の年齢は 10 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳以上が全体の 76.8%を占めた。類型は全て患者で、患者の病型別では肺炎型 96 人、ポンティアック熱型 3 人であった。年間を通して届出はあったが、月別の届出数は 7 月の 21 人、10 月の 14 人、11 月の 11 人、6 月及び 9 月の各 10 人の順に多かった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が 98 人、LAMP 法による病原遺伝子の検出が 7 人、分離・同定による病原体の検出が 3 人、蛍光抗体法による病原体抗原の検出が 1 人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内

83 人、不明 16 人で、国内感染例のうち県内は 64 人であった。

前年発生の中なかったレプトスピラ症は、12 月に男性 60 歳代 1 人の届出があった。推定感染経路はネズミによる咬傷で、推定感染地域は国内(県内)であった。

(d) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢 19 人、ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)10 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 95 人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)1 人、急性脳炎 20 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 4 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 30 人、後天性免疫不全症候群 28 人、ジアルジア症 4 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 6 人、侵襲性肺炎球菌感染症 57 人、水痘(入院例)15 人、梅毒 287 人、播種性クリプトコックス症 10 人、破傷風 3 人、百日咳 43 人、風しん 1 人、麻しん 1 人の計 634 人の届出があった(表 III-1-5)。

表 III-1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和3年	令和2年	令和元年		令和3年	令和2年	令和元年
アメーバ赤痢	19	31	36	侵襲性肺炎球菌感染症	57	63	137
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	10	6	5	水痘(入院例)	15	13	17
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	95	81	90	先天性風しん症候群	0	0	1
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)*	1	2	4	梅毒	287	168	205
急性脳炎	20	23	59	播種性クリプトコックス症	10	10	9
クリプトスポリジウム症	0	0	0	破傷風	3	5	4
クロイツフェルト・ヤコブ病	4	2	8	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	30	30	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	2
後天性免疫不全症候群	28	29	46	百日咳	43	106	704
ジアルジア症	4	0	0	風しん	1	3	198
侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	12	17	麻しん	1	0	35
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	2	0	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	1

アメーバ赤痢は、男性 18 人、女性 1 人の計 19 人の届出があり、前年の 31 人より大きく減少した。症例の年齢は 40 歳代から 70 歳代に分布し、60 歳代の 7 人が最も多かった。病型は、全て腸管アメーバ症であった。診断方法は、鏡検による病原体の検出が 18 人で、PCR 法による病原体遺伝子の検出が 1 人であった。推定感染経路は経口感染が 1 人、性的接触が 5 人、不明 13 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び同性間性的接触が各 2 人、異性同性不明が 1 人であった。推定感染地域は、国内 8 人、国外 2 人、不明 9 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)は、B 型肝炎 5 人、C 型肝炎 1 人、その他のウイルス性肝炎 4 人の計 10 人の届出があり、前年の 6 人を上回った。B 型肝炎は 10 歳代から 30 歳代の男性 5 人の届出があった。いず

れも、診断方法は血清 IgM 抗体 (HBc 抗体) の検出であった。ウイルスの遺伝子型は A 型が 2 人、B 型が 1 人、C 型が 1 人であった。推定感染経路は全て性的接触で、性的接触の内訳は異性間性的接触が 3 人、同性間性的接触が 1 人、異性同性不明が 1 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。C 型肝炎は 12 月に男性 40 歳代 1 人の届出があった。診断方法は HCV 抗体陰性、かつ HCV RNA 又は HCV コア抗原の検出であった。推定感染経路は針等の鋭利なものの刺入であり、推定感染地域は国内であった。その他のウイルス性肝炎は、エプスタイン・バーン・ウイルス (EBV) とサイトメガロウイルス (CMV) による肝炎が 3 月に女性 20 歳代 1 人、EBV による肝炎が 4 月に女性 20 歳代、8 月に女性 50 歳代、9 月に女性 10 歳代の各 1 人で、計 4 人の届出があった。推定感染経路は性的接触及び不明が各 2 人で、推定感染地域はいずれも国内であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 63 人、女性 32 人の計 95 人の届出があり、前年の 81 人より増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 72 人で全体の 75.8% を占めた。症状は菌血症・敗血症が 28 人、尿路感染症が 26 人、肺炎が 22 人、胆嚢炎・胆管炎が 20 人、腸炎・腹膜炎が 6 人であった。(重複例有り)。検査検体で多かったのは、血液の 26 検体、尿の 24 検体、喀痰の 20 検体であった(重複例有り)。分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 37 株、*Enterobacter cloacae* が 26 株、*K. pneumoniae* が 9 株、*Escherichia coli* が 5 株、*E. bugandensis* が 4 株、*Citrobacter freundii* 及び *K. oxytoca* が各 3 株、*Providencia stuartii* 及び *Serratia marcescens* が各 2 株、*C. braakii*、*E. asburiae*、*S. liquefaciens* が各 1 株で、この他に *Klebsiella* sp. が 1 株報告された。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、10 月に男性 5-9 歳 1 人の届出があり、前年の 2 人を下回った。病原体は不明で、ポリオワクチン接種歴は有りであった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は国内であった。

急性脳炎は、男性 5 人、女性 15 人の計 20 人の届出があり、前年の 23 人を下回った。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、階級別では 10 歳未満が 15 人で最も多かった。病原体が特定された症例は、10 月及び 12 月の 2 人(ヘルペスウイルス)、1 月の 1 人(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)、7 月の 1 人(パレコウイルス)で、残りの 16 人の病原体は特定されなかった。推定感染地域は、国内が 18 人(県内 16 人)、不明 2 人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、男性 1 人、女性 3 人の計 4 人の届出があり、前年の 2 人を上回った。症例の年齢は 60 歳代 1 人、70 歳代 2 人、80 歳代 1 人で、病型は古典型 CJD3 人、家族性 CJD1 人で、診断の確実度は、ほぼ確実が 3 人、疑いが 1 人であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性 17 人、女性 13 人の計 30 人の届出があり、前年と同数であった。症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 22 人で全体の 73.3%を占めた。届出は 7 月及び 8 月を除く各月にあり、1 月及び 12 月の 5 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 11 人、G 群が 16 人、B 群が 2 人、不明が 1 人であった。推定される感染経路は創傷感染が 14 人、その他が 3 人、不明が 13 人で、推定感染地域は国内が 27 人(全て県内)、不明が 3 人であった。

後天性免疫不全症候群は、男性 27 人、女性 1 人の計 28 人の届出があり、前年の 29 人を下回った。男性の症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し、20 歳代から 40 歳代が 23 人で、男性全体の 85.2%を占めた。病型は AIDS が 11 人で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 6 人、サイトメガロウイルス感染症(生後 1 カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外)が 2 人、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)、クリプトコッカス症(肺以外)、HIV 脳症(認知症又は亜急性脳炎)、HIV 消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)、進行性多巣性白質脳症及び非ホジキンリンパ腫(LSG 分類により ①大細胞型、免疫芽球型 ②Burkitt 型)が各 1 人であった(重複例有り)。また、その他(指標疾患を認めない患者)が 1 人、無症状病原体保有者が 15 人であった。推定される感染経路では性的接触が 22 人、不明が 5 人で、性的接触の内訳は同性間性的接触が 17 人、異性間性的接触が 3 人、異性・同性間性的接触及び異性・同性不明性的接触が各 1 人であった。女性の症例は、30 歳代であった。病型は AIDS で、その指標疾患は活動性結核(肺結核又は肺外結核)であった。推定感染経路は異性間性的接触であった(表 III-1-6)。また、病型別の年齢分布では、AIDS は 30 歳代から 70 歳代に分布し、30 歳代から 40 歳代が 10 人で AIDS 患者全体の 83.3%を占めた。無症状病原体保有者は 20 歳代から 50 歳代に分布し、20 歳代から 30 歳代が 10 人で無症状病原体保有者全体の 66.7%を占めた。

表Ⅲ-1-6 後天性免疫不全症候群性別内訳(令和3年)

		男性 n=27		女性 n=1		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	20歳代	6	22.2%	-	0.0%	
	30歳代	8	29.6%	1	100.0%	
	40歳代	9	33.3%	-	0.0%	
	50歳代	3	11.1%	-	0.0%	
	60歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	70歳代	1	3.7%	-	0.0%	
	80歳以上	-	0.0%	-	0.0%	
病型	AIDS	11	40.7%	1	100.0%	
	その他	1	3.7%	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	15	55.6%	-	-	
推定感染地域	日本国内	17	63.0%	-	0.0%	
	その他(国外)	2	7.4%	1	100.0%	
	不明	8	29.6%	-	0.0%	
国籍	日本	22	81.5%	-	0.0%	
	その他	3	11.1%	1	100.0%	
	不明	2	7.4%	-	0.0%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	3	11.1%	1	100.0%
		同性間性的接触	17	63.0%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	1	3.7%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	1	3.7%	-	0.0%
	不明	5	18.5%	-	0.0%	

(届出数-:0)

前年発生の中なかったジアルジア症は、男性4人の届出があった。症例の年齢は30歳代から70歳代に分布した。いずれも、診断方法は鏡検による病原体の検出であった。推定感染経路は同性間性的接触及び経口感染が各1人、不明が2人で、推定感染地域は国内が2人、国外が1人、不明が1人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性4人、女性2人の計6人の届出があり、前年の12人より減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、1-4歳で3人、0歳で1人、40歳代以上で2人の報告があった。診断方法は、全て分離・同定による病原体の検出で、検体は血液が5人、髄液が1人であった。ヒブワクチン接種歴は、0歳及び1-4歳の4人は有り、40歳代以上では無し及び不明が各1人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が2人、不明が2人で、残りの2人は胆管炎からの波及、口腔内の外傷が疑われていた。推定感染地域は国内5人(県内4人)、不明が1人であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性41人、女性16人の計57人の届出があり、前年の63人を下回った。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、

60歳以上が34人で全体の59.6%を占めた。20歳未満では1-4歳が9人、0歳が3人、5-9歳が1人の報告があった。診断方法は、分離同定による病原体の検出のみが53人、分離同定による病原体の検出及びイムノクロマト法による病原体抗原の検出が3人、分離同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出が1人であった。症状は菌血症が51人(89.5%)、発熱が49人(86.0%)、肺炎が21人(36.8%)に認められた。ワクチン接種歴は、20歳未満では、0歳の不明1人を除き、いずれも有り、20歳以上では、有りが60歳以上の5人、無しが7人、不明が32人であった。推定感染地域は国内が53人(県内45人)、不明が4人であった。

水痘(入院例)は、男性8人、女性7人の計15人の届出があり、前年の13人を上回った。症例の年齢は0歳から90歳代に分布した。病型別では検査診断例が9例、臨床診断例が6例で、検査診断例の診断方法は、イムノクロマト法による抗原の検出及び蛍光抗体法による抗原の検出が各3人、分離・同定による病原体の検出が2人、血清IgM抗体の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が各1人であった(重複例有り)。ワクチン接種歴は無しが2人、不明が13人であった。感染経路は、家族等からの感染、入院中の院内感染及び不明が各5人で、推定感染地域は国内が13人(県内10人)、不明が2人であった。

梅毒は、男性219人、女性68人の計287人の届出があり、前年の168人より増加し、届出数は過去5年で最大となった。性比(男/女)は3.22で、前年の2.11より高くなった。症例の年齢は、男性では10歳代から80歳代に分布し、40歳代が最も多く20歳代から40歳代が77.6%を占めた。女性では0歳代から90歳代に分布し、20歳代が最も多く10歳代から40歳代が83.8%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I期)が118人、早期顕症梅毒(II期)が62人、晩期顕症梅毒が4人、無症状病原体保有者が35人で、女性では早期顕症梅毒(I期)が11人、早期顕症梅毒(II期)が27人、晩期顕症梅毒が1人、先天梅毒が2人、無症状病原体保有者が27人であった。また、先天梅毒は2人で、前年の5人を下回った。推定感染経路は、男性では性行為感染が185人、不明が34人、女性では性行為感染が49人、母子感染が2人、不明が17人であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男性が129人、女性が42人であった(表Ⅲ-1-7)。性風俗産業の直近6か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の39.7%、従事歴が女性の11.8%に認められた。HIV感染症との合併は男性10人、妊娠は女性5人に認められた。また、推定感染地域は国内が219人、不明が68人であった。

表Ⅲ-1-7 梅毒性別内訳(令和3年)

		男性 n=219		女性 n=68		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	2	2.9%	
	10歳代	2	0.9%	12	17.6%	
	20歳代	55	25.1%	27	39.7%	
	30歳代	52	23.7%	10	14.7%	
	40歳代	63	28.8%	8	11.8%	
	50歳代	33	15.1%	3	4.4%	
	60歳代	9	4.1%	1	1.5%	
	70歳代	4	1.8%	3	4.4%	
	80歳以上	1	0.5%	2	2.9%	
病型	早期顕症梅毒(I期)	118	53.9%	11	16.2%	
	早期顕症梅毒(II期)	62	28.3%	27	39.7%	
	晩期顕症梅毒	4	1.8%	1	1.5%	
	先天梅毒	-	0.0%	2	2.9%	
	無症状病原体保有者	35	16.0%	27	39.7%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	129	58.9%	42	61.8%
		同性間性的接触	18	8.2%	1	1.5%
		異性・同性間性的接触	2	0.9%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	36	16.4%	6	8.8%
	性行為以外	母子感染	-	0.0%	2	2.9%
	不明		34	15.5%	17	25.0%

(届出数-0)

播種性クリプトコックス症は、男性6人、女性4人の計10人の届出があり、前年の10人と同数であった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が9人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が2人、病理組織学的診断が1人であった(重複例有り)。感染原因は、ステロイド内服等による免疫不全が9人、不明が1人であった。推定感染地域は国内が7人(県内6人)、不明3人であった。

破傷風は、男性3人の届出があり、前年の5人を下回った。症例の年齢は50歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内(全て県内)であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有り、無し及び不明が各1人であった。

百日咳は、男性15人、女性28人の計43人の届出があり、前年の106人より減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、階級別では1-4歳で15人、20歳代及び30歳代で各6人の順に多かった。診断方法は単一血清で抗体価の高値が31人、病原体遺伝子の検出が6人、免疫クロマト法による病原体抗原の検出及び分離・同定による病原体の検出が各3人であった。ワクチン接種歴は有りが23人、無しが1人、不明が19人で、接種歴有りの者は全員4回接種であった。また、0歳の症例は接種

歴がなかった。推定感染地域は国内が 35 人(県内 32 人)、不明が 8 人であった。

風しんは、4 月に男性 5-9 歳 1 人の届出があり、前年の 3 人を下回った。病型は検査診断例で、診断方法は、血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は 2 回であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内(県内)であった。

前年発生がなかった麻しんは 7 月に男性 20 歳代 1 人の届出があった。病型は修飾麻しん(検査診断例)で、診断方法は、血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は 2 回であった。推定感染経路及び推定感染地域は不明であった。

(e) 獣医師が届出を行う感染症

令和 3 年に獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン)、結核(サル)、鳥インフルエンザ(H5N1 又は H7N9)(鳥類)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(イヌ)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の届出はなかった。

b. 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関(定点医療機関)からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを 1 週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、令和 3 年の報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ定点が 13,084 機関、小児科定点が 8,307 機関、眼科定点が 2,072 機関、基幹定点が 572 機関、月単位報告の性感染症定点が 705 機関、基幹定点が 132 機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表Ⅲ-1-8 から表Ⅲ-1-12、性感染症の性年齢階級別報告数を表Ⅲ-1-13 に示す。

(a) 週単位報告の感染症(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告)

インフルエンザの 2020-2021 年シーズン及び 2021-2022 年シーズンの流行は観察されなかった。

RS ウイルス感染症の流行のピークは、平成 28 年以降では 8 月から 10 月にかけて観察されている。令和 3 年の流行は 5 月から始まり、ピークは 7 月で、9 月まで続いた。咽頭結膜熱は、例年に比べ小規模な流行が夏

季と冬季に観察された。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、年間を通して例年を下回る水準で推移した。感染性胃腸炎は、11月から12月の冬季流行は、小規模な流行年であった平成29年及び平成30年と同等であった。水痘は、年間を通して例年を下回る水準で推移した。手足口病は、平成23年以降、平成25年、平成27年、平成29年、平成31年・令和元年と隔年で大きな流行が観察されているが、令和3年は流行が観察されなかった。伝染性紅斑は、平成30年から始まった流行が前年に終息し、令和3年は年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。突発性発しんは、6月から9月までは例年を下回る水準で推移したが、それ以外の期間は例年同様の動向が観察された。ヘルパンギーナは、夏季の流行が観察されなかった。流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、平成30年以降非流行期が続いている。

急性出血性結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

細菌性髄膜炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は0.22～1.89であった。令和3年の定点当たり報告患者総数は1.00で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は2.00～6.00であった。令和3年の定点当たり報告患者総数は2.45で、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は7.91～128.11であった。令和3年の定点当たり報告患者総数は0.91で、過去10年の最小値を下回った。クラミジア肺炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は0.00～6.00であった。令和3年は前年に引き続き、患者の報告はなかった。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は平成25年第42週から報告対象疾患となり、平成26年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は0.09～11.40であった。令和3年の定点当たり報告患者総数は0.27で、流行は観察されなかった。インフルエンザ(入院患者)は平成23年第36週から報告対象疾患となり、平成24年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は11.91～52.64であった。令和3年の定点当たり報告患者総数は0.09で、過去9年の最小値を下回った。

(b) 月単位報告の感染症(基幹定点、性感染症定点)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成11年の感染症法施行後およそ10年間は30.00を超えていたが、平成25年以降は20.00を下回っていた。令和3年の定点当たり報告患者総

数は **22.36** で、前年より増加したが、全国と比較すると少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 17 年から平成 23 年は **10.00** を超えていた。その後は低い水準で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **1.91** で、全国より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは **1.00** 以上であったが、平成 20 年から令和 2 年までは **0.09～0.89** で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **0.27** で、全国と同等であった。性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは **30.00** を上回っていたが、平成 20 年から令和 2 年までは **24.12～28.72** で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **27.89** で、全国より少なかった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、**5.82～9.50** で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **8.45** で、全国より少なかった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、**3.84～6.28** で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **4.26** で、全国より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、**6.47～17.44** で推移している。令和 3 年の定点当たり報告患者総数は **7.39** で、全国より少なかった。

c. 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

令和 3 年の埼玉県における「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の届出はなかった。

表Ⅲ-1-8 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位報告患者数の推移(令和3年)

週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	01/04	1	1	37	60	314	23	3	1	71	3	6	-	6
2	01/11	3	1	40	56	363	17	1	3	82	2	8	-	8
3	01/18	1	-	42	69	403	23	5	2	65	1	10	1	2
4	01/25	-	2	46	111	413	18	1	6	86	3	10	-	6
5	02/01	3	2	48	109	419	34	2	2	62	2	14	2	5
6	02/08	2	-	37	83	331	13	4	5	66	3	12	1	5
7	02/15	-	1	20	74	427	19	3	3	63	1	8	-	6
8	02/22	3	3	18	77	363	20	2	2	67	1	4	-	5
9	03/01	1	3	27	88	421	25	-	5	72	1	7	-	5
10	03/08	1	-	18	83	477	21	1	4	73	2	7	-	6
11	03/15	1	1	23	90	371	25	1	1	57	3	13	-	4
12	03/22	1	4	21	63	352	27	2	2	67	4	11	-	5
13	03/29	1	2	12	54	350	19	2	1	62	1	6	-	5
14	04/05	1	7	25	53	350	17	4	4	54	1	5	1	9
15	04/12	2	3	16	75	382	17	5	3	83	-	11	2	9
16	04/19	3	9	23	82	584	10	3	8	95	3	7	1	10
17	04/26	-	4	23	106	620	20	4	7	93	1	5	-	8
18	05/03	-	11	11	45	374	19	3	2	67	-	7	1	9
19	05/10	-	9	37	72	768	26	8	6	97	2	7	-	7
20	05/17	1	23	37	65	757	22	9	1	86	6	11	2	9
21	05/24	-	41	64	76	767	25	9	2	90	4	17	-	11
22	05/31	-	59	51	75	782	26	21	-	93	6	15	-	10
23	06/07	-	117	76	77	810	22	20	4	102	5	12	-	11
24	06/14	-	191	85	83	722	25	15	3	101	5	12	-	18
25	06/21	-	312	54	74	798	12	18	1	79	8	13	-	14
26	06/28	-	461	48	81	798	14	14	6	74	10	14	-	7
27	07/05	-	694	70	64	741	10	12	3	82	25	18	1	8
28	07/12	-	1,058	45	85	755	21	16	2	54	16	18	3	14
29	07/19	-	1,000	23	36	484	13	15	4	67	32	15	2	7
30	07/26	1	927	25	45	578	14	12	1	67	29	24	2	6
31	08/02	-	906	20	55	439	16	11	1	37	39	15	2	13
32	08/09	-	607	9	41	252	11	8	1	28	25	14	1	1
33	08/16	-	425	18	25	340	8	11	-	39	44	10	-	7
34	08/23	-	541	14	32	350	14	26	1	61	51	11	-	6
35	08/30	-	423	13	32	398	9	11	3	60	59	7	-	7
36	09/06	-	290	10	33	399	13	13	1	49	54	10	2	4
37	09/13	-	218	14	38	418	25	17	3	56	54	6	-	7
38	09/20	-	141	19	24	358	18	18	6	59	27	10	-	5
39	09/27	-	77	15	32	359	23	12	2	49	32	15	-	7
40	10/04	-	54	11	46	415	10	7	3	63	29	14	1	15
41	10/11	-	36	8	42	488	11	7	-	62	34	18	-	6
42	10/18	1	33	16	69	502	15	9	2	65	38	12	-	7
43	10/25	2	21	20	84	564	16	19	3	68	30	13	-	8
44	11/01	-	18	17	74	573	21	22	2	54	24	8	-	13
45	11/08	1	5	28	57	738	42	33	1	79	33	5	1	10
46	11/15	-	6	34	95	979	23	63	3	53	25	12	1	3
47	11/22	1	15	26	62	1,141	29	56	3	64	41	10	-	4
48	11/29	2	10	38	59	1,455	42	64	2	53	38	8	-	8
49	12/06	-	13	45	99	1,800	36	60	4	49	40	7	-	6
50	12/13	1	27	53	79	1,881	41	62	1	48	50	6	1	10
51	12/20	1	14	63	70	1,941	27	70	5	47	38	5	1	9
52	12/27	-	7	30	29	890	14	24	-	22	7	1	-	-
令和3年	計	35	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544	29	391
令和2年	計	29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571	39	560
令和3年/令和2年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0	0.7	0.7

(-:0)

表Ⅲ-1-9 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位定点当たり報告数の推移(令和3年)

週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	01/04	-	0.01	0.24	0.39	2.03	0.15	0.02	0.01	0.46	0.02	0.04	-	0.15
2	01/11	0.01	0.01	0.25	0.35	2.27	0.11	0.01	0.02	0.51	0.01	0.05	-	0.21
3	01/18	-	-	0.26	0.43	2.50	0.14	0.03	0.01	0.40	0.01	0.06	0.02	0.05
4	01/25	-	0.01	0.29	0.69	2.58	0.11	0.01	0.04	0.54	0.02	0.06	-	0.15
5	02/01	0.01	0.01	0.30	0.68	2.60	0.21	0.01	0.01	0.39	0.01	0.09	0.05	0.13
6	02/08	0.01	-	0.23	0.52	2.07	0.08	0.03	0.03	0.41	0.02	0.08	0.03	0.13
7	02/15	-	0.01	0.13	0.47	2.72	0.12	0.02	0.02	0.40	0.01	0.05	-	0.15
8	02/22	0.01	0.02	0.11	0.48	2.28	0.13	0.01	0.01	0.42	0.01	0.03	-	0.13
9	03/01	-	0.02	0.17	0.55	2.63	0.16	-	0.03	0.45	0.01	0.04	-	0.12
10	03/08	-	-	0.11	0.52	2.98	0.13	0.01	0.03	0.46	0.01	0.04	-	0.15
11	03/15	-	0.01	0.14	0.56	2.30	0.16	0.01	0.01	0.35	0.02	0.08	-	0.10
12	03/22	-	0.02	0.13	0.39	2.17	0.17	0.01	0.01	0.41	0.02	0.07	-	0.13
13	03/29	-	0.01	0.07	0.34	2.17	0.12	0.01	0.01	0.39	0.01	0.04	-	0.13
14	04/05	-	0.04	0.16	0.33	2.19	0.11	0.03	0.03	0.34	0.01	0.03	0.03	0.23
15	04/12	0.01	0.02	0.10	0.46	2.36	0.10	0.03	0.02	0.51	-	0.07	0.05	0.23
16	04/19	0.01	0.06	0.14	0.51	3.60	0.06	0.02	0.05	0.59	0.02	0.04	0.03	0.25
17	04/26	-	0.03	0.15	0.71	4.16	0.13	0.03	0.05	0.62	0.01	0.03	-	0.22
18	05/03	-	0.07	0.07	0.28	2.35	0.12	0.02	0.01	0.42	-	0.04	0.02	0.22
19	05/10	-	0.06	0.23	0.45	4.83	0.16	0.05	0.04	0.61	0.01	0.04	-	0.18
20	05/17	-	0.14	0.23	0.40	4.70	0.14	0.06	0.01	0.53	0.04	0.07	0.05	0.23
21	05/24	-	0.26	0.40	0.48	4.79	0.16	0.06	0.01	0.56	0.03	0.11	-	0.27
22	05/31	-	0.37	0.32	0.47	4.86	0.16	0.13	-	0.58	0.04	0.09	-	0.24
23	06/07	-	0.73	0.47	0.48	5.03	0.14	0.12	0.02	0.63	0.03	0.07	-	0.27
24	06/14	-	1.18	0.52	0.51	4.46	0.15	0.09	0.02	0.62	0.03	0.07	-	0.44
25	06/21	-	1.93	0.33	0.46	4.93	0.07	0.11	0.01	0.49	0.05	0.08	-	0.34
26	06/28	-	2.90	0.30	0.51	5.02	0.09	0.09	0.04	0.47	0.06	0.09	-	0.18
27	07/05	-	4.28	0.43	0.40	4.57	0.06	0.07	0.02	0.51	0.15	0.11	0.03	0.20
28	07/12	-	6.49	0.28	0.52	4.63	0.13	0.10	0.01	0.33	0.10	0.11	0.07	0.34
29	07/19	-	6.13	0.14	0.22	2.97	0.08	0.09	0.02	0.41	0.20	0.09	0.05	0.17
30	07/26	-	5.72	0.15	0.28	3.57	0.09	0.07	0.01	0.41	0.18	0.15	0.05	0.15
31	08/02	-	6.12	0.14	0.37	2.97	0.11	0.07	0.01	0.25	0.26	0.10	0.06	0.39
32	08/09	-	4.37	0.06	0.29	1.81	0.08	0.06	0.01	0.20	0.18	0.10	0.03	0.03
33	08/16	-	2.71	0.11	0.16	2.17	0.05	0.07	-	0.25	0.28	0.06	-	0.18
34	08/23	-	3.36	0.09	0.20	2.17	0.09	0.16	0.01	0.38	0.32	0.07	-	0.15
35	08/30	-	2.63	0.08	0.20	2.47	0.06	0.07	0.02	0.37	0.37	0.04	-	0.18
36	09/06	-	1.80	0.06	0.20	2.48	0.08	0.08	0.01	0.30	0.34	0.06	0.05	0.10
37	09/13	-	1.41	0.09	0.25	2.70	0.16	0.11	0.02	0.36	0.35	0.04	-	0.19
38	09/20	-	0.88	0.12	0.15	2.22	0.11	0.11	0.04	0.37	0.17	0.06	-	0.13
39	09/27	-	0.48	0.09	0.20	2.23	0.14	0.07	0.01	0.30	0.20	0.09	-	0.17
40	10/04	-	0.34	0.07	0.29	2.58	0.06	0.04	0.02	0.39	0.18	0.09	0.02	0.37
41	10/11	-	0.22	0.05	0.26	3.01	0.07	0.04	-	0.38	0.21	0.11	-	0.15
42	10/18	-	0.20	0.10	0.43	3.10	0.09	0.06	0.01	0.40	0.23	0.07	-	0.17
43	10/25	0.01	0.13	0.13	0.53	3.53	0.10	0.12	0.02	0.43	0.19	0.08	-	0.20
44	11/01	-	0.11	0.10	0.46	3.54	0.13	0.14	0.01	0.33	0.15	0.05	-	0.33
45	11/08	-	0.03	0.17	0.35	4.53	0.26	0.20	0.01	0.48	0.20	0.03	0.02	0.24
46	11/15	-	0.04	0.21	0.58	6.01	0.14	0.39	0.02	0.33	0.15	0.07	0.02	0.07
47	11/22	-	0.09	0.16	0.38	7.04	0.18	0.35	0.02	0.40	0.25	0.06	-	0.10
48	11/29	0.01	0.06	0.24	0.37	9.09	0.26	0.40	0.01	0.33	0.24	0.05	-	0.20
49	12/06	-	0.08	0.28	0.61	11.18	0.22	0.37	0.02	0.30	0.25	0.04	-	0.15
50	12/13	-	0.17	0.33	0.48	11.54	0.25	0.38	0.01	0.29	0.31	0.04	0.02	0.24
51	12/20	-	0.09	0.39	0.43	11.91	0.17	0.43	0.03	0.29	0.23	0.03	0.03	0.23
52	12/27	-	0.04	0.19	0.18	5.67	0.09	0.15	-	0.14	0.04	0.01	-	-
令和3年	計	0.14	55.55	10.21	21.31	206.00	6.67	5.27	0.89	21.65	6.24	3.42	0.74	10.03
令和2年	計	116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59	1.00	14.36
令和3年/令和2年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0	0.7	0.7

(-0)

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-10 定点把握対象疾患(基幹)
週単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和3年)

週	月/日(週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院患者)	週	月/日(週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院患者)
1	01/04	-	1	-	-	-	-	1	01/04	-	0.09	-	-	-	-
2	01/11	-	1	-	-	-	-	2	01/11	-	0.09	-	-	-	-
3	01/18	-	-	-	-	-	-	3	01/18	-	-	-	-	-	-
4	01/25	-	-	1	-	-	-	4	01/25	-	-	0.09	-	-	-
5	02/01	3	3	-	-	-	-	5	02/01	0.27	0.27	-	-	-	-
6	02/08	-	-	-	-	-	-	6	02/08	-	-	-	-	-	-
7	02/15	-	1	-	-	-	-	7	02/15	-	0.09	-	-	-	-
8	02/22	-	1	-	-	1	-	8	02/22	-	0.09	-	-	0.09	-
9	03/01	-	-	2	-	1	-	9	03/01	-	-	0.18	-	0.09	-
10	03/08	-	-	1	-	-	-	10	03/08	-	-	0.09	-	-	-
11	03/15	-	1	1	-	-	-	11	03/15	-	0.09	0.09	-	-	-
12	03/22	1	-	-	-	-	1	12	03/22	0.09	-	-	-	-	0.09
13	03/29	-	-	-	-	-	-	13	03/29	-	-	-	-	-	-
14	04/05	-	-	-	-	-	-	14	04/05	-	-	-	-	-	-
15	04/12	1	-	-	-	-	-	15	04/12	0.09	-	-	-	-	-
16	04/19	-	2	-	-	-	-	16	04/19	-	0.18	-	-	-	-
17	04/26	-	-	-	-	-	-	17	04/26	-	-	-	-	-	-
18	05/03	1	-	-	-	-	-	18	05/03	0.09	-	-	-	-	-
19	05/10	-	-	-	-	1	-	19	05/10	-	-	-	-	0.09	-
20	05/17	-	-	-	-	-	-	20	05/17	-	-	-	-	-	-
21	05/24	-	-	-	-	-	-	21	05/24	-	-	-	-	-	-
22	05/31	-	-	-	-	-	-	22	05/31	-	-	-	-	-	-
23	06/07	-	1	-	-	-	-	23	06/07	-	0.09	-	-	-	-
24	06/14	1	1	1	-	-	-	24	06/14	0.09	0.09	0.09	-	-	-
25	06/21	-	1	-	-	-	-	25	06/21	-	0.09	-	-	-	-
26	06/28	-	1	-	-	-	-	26	06/28	-	0.09	-	-	-	-
27	07/05	-	1	-	-	-	-	27	07/05	-	0.09	-	-	-	-
28	07/12	-	-	-	-	-	-	28	07/12	-	-	-	-	-	-
29	07/19	-	-	-	-	-	-	29	07/19	-	-	-	-	-	-
30	07/26	1	1	1	-	-	-	30	07/26	0.09	0.09	0.09	-	-	-
31	08/02	-	1	-	-	-	-	31	08/02	-	0.09	-	-	-	-
32	08/09	-	1	1	-	-	-	32	08/09	-	0.09	0.09	-	-	-
33	08/16	-	-	-	-	-	-	33	08/16	-	-	-	-	-	-
34	08/23	-	-	1	-	-	-	34	08/23	-	-	0.09	-	-	-
35	08/30	-	-	-	-	-	-	35	08/30	-	-	-	-	-	-
36	09/06	-	-	-	-	-	-	36	09/06	-	-	-	-	-	-
37	09/13	-	-	-	-	-	-	37	09/13	-	-	-	-	-	-
38	09/20	-	2	-	-	-	-	38	09/20	-	0.18	-	-	-	-
39	09/27	-	1	-	-	-	-	39	09/27	-	0.09	-	-	-	-
40	10/04	-	-	1	-	-	-	40	10/04	-	-	0.09	-	-	-
41	10/11	-	-	-	-	-	-	41	10/11	-	-	-	-	-	-
42	10/18	-	2	-	-	-	-	42	10/18	-	0.18	-	-	-	-
43	10/25	1	1	-	-	-	-	43	10/25	0.09	0.09	-	-	-	-
44	11/01	-	-	-	-	-	-	44	11/01	-	-	-	-	-	-
45	11/08	-	-	-	-	-	-	45	11/08	-	-	-	-	-	-
46	11/15	-	-	-	-	-	-	46	11/15	-	-	-	-	-	-
47	11/22	1	2	-	-	-	-	47	11/22	0.09	0.18	-	-	-	-
48	11/29	-	-	-	-	-	-	48	11/29	-	-	-	-	-	-
49	12/06	-	-	-	-	-	-	49	12/06	-	-	-	-	-	-
50	12/13	-	1	-	-	-	-	50	12/13	-	0.09	-	-	-	-
51	12/20	-	-	-	-	-	-	51	12/20	-	-	-	-	-	-
52	12/27	1	-	-	-	-	-	52	12/27	0.09	-	-	-	-	-
令和3年	計	11	27	10	-	3	1	令和3年	計	1.00	2.45	0.91	-	0.27	0.09
令和2年	計	12	22	87	-	1	131	令和2年	計	1.09	2.00	7.91	-	0.09	11.91
令和3年/令和2年比		0.9	1.2	0.1		3.0	0.0	令和3年/令和2年比		0.9	1.2	0.1		3.0	0.0

(-0)

(-0)

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-11 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和3年)

月	メシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	10	0.91	0	0.00	-	-
2月	18	1.64	4	0.36	-	-
3月	14	1.27	3	0.27	1	0.09
4月	17	1.55	4	0.36	-	-
5月	17	1.55	2	0.18	1	0.09
6月	13	1.18	0	0.00	1	0.09
7月	10	0.91	4	0.36	-	-
8月	21	1.91	0	0.00	-	-
9月	36	3.27	-	-	-	-
10月	36	3.27	1	0.09	-	-
11月	31	2.82	1	0.09	-	-
12月	23	2.09	2	0.18	-	-
令和3年 計	246	22.36	21	1.91	3	0.27
令和2年 計	160	14.55	28	2.55	6	0.55
令和3年/令和2年比	1.5	1.5	0.8	0.8	0.5	0.5

(-:0)

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-12 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和3年)

月	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	130	2.24	43	0.74	19	0.33	39	0.67
2月	121	2.05	37	0.63	16	0.27	33	0.56
3月	155	2.72	51	0.89	18	0.32	28	0.49
4月	152	2.58	38	0.64	28	0.47	35	0.59
5月	147	2.49	39	0.66	23	0.39	34	0.58
6月	161	2.73	47	0.80	17	0.29	45	0.76
7月	130	2.20	45	0.76	16	0.27	56	0.95
8月	127	2.15	35	0.59	21	0.36	25	0.42
9月	134	2.27	35	0.59	20	0.34	31	0.53
10月	102	1.73	32	0.54	30	0.51	43	0.73
11月	128	2.17	58	0.98	20	0.34	31	0.53
12月	150	2.54	36	0.61	22	0.37	34	0.58
令和3年 計	1,637	27.89	496	8.45	250	4.26	434	7.39
令和2年 計	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
令和3年/令和2年比	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-13 定点把握対象疾患(性感染症)
性年齢階級別報告患者数の推移(令和3年)

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	0	-	-	-
10-14歳	-	3	-	2	-	1	-	1
15-19歳	19	121	1	19	1	12	8	18
20-24歳	105	395	12	65	10	41	81	37
25-29歳	105	283	22	63	18	40	55	21
30-34歳	77	144	13	65	12	21	37	12
35-39歳	68	95	12	47	13	15	40	10
40-44歳	62	34	12	33	11	5	32	8
45-49歳	38	25	14	25	8	7	26	2
50-54歳	19	14	8	20	8	5	15	1
55-59歳	15	7	11	11	6	2	15	2
60-64歳	5	-	1	7	4	1	6	-
65-69歳	2	0	4	7	1	-	4	-
70歳～	-	1	2	20	4	4	1	2
合計	515	1,122	112	384	96	154	320	114
男女比	0.46	1.00	0.29	1.00	0.62	1.00	2.81	1.00

(-:0)

(2) 病原体情報

a. 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(a) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する **Variable Numbers of Tandem Repeats 法 (VNTR 法)** 等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。令和3年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は75株であった。これらの解析結果では、北京型は51株(68.0%)、非北京型は24株(32.0%)、型別不能は0株であった。さらに、北京型51株の系統推定では34株(66.7%)が祖先型、13株(25.5%)が新興型、4株が推定不能であった。

(b) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症の細菌は、腸管出血性大腸菌129株、チフス菌2株の計131株で、コレラ菌、赤痢菌、パラチフスA菌は分離されなかった。このうち国外感染例からの分離は、チフス菌2株であった。国内感染例からの分離は、腸管出血性大腸菌129株であった(表Ⅲ-1-14)。

表Ⅲ-1-14 埼玉県 の 三類感染症細菌検出状況(令和 3 年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	-	-	2	-	2
国内感染	-	-	129	-	-	129
合計	-	-	129	2	-	131

(-:0)

腸管出血性大腸菌は 129 株であった。血清型別では、21 血清型が検出された。最も多く検出された血清型は O26:H11 で 54 株(41.9%)であった。次いで O157:H7 で 35 株(27.1%)、O156:H25 が 8 株(6.2%)、O157:H-、O103:H2、O111:H-がそれぞれ 4 株ずつ、その他の血清型は 3 株以下であった。毒素型では、VT1 が 76 株(58.9%)、VT1&2 が 35 株(27.1%)、VT2 が 18 株(14.0%)であった(表Ⅲ-1-15)。

表Ⅲ-1-15 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(令和 3 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	-	9	26	35
O157:H-	-	1	3	4
O26:H11	52	-	2	54
O26:H-	3	-	-	3
O156:H25	8	-	-	8
O156:H-	1	-	-	1
O103:H2	4	-	-	4
O111:H-	1	1	2	4
O5:H-	3	-	-	3
O177:H-	-	2	-	2
O91:H-	1	-	-	1
O115:H10	1	-	-	1
O145:H-	-	1	-	1
O183:H18	1	-	-	1
O21:H2	-	1	-	1
O54:H45	-	1	-	1
O166:H28	1	-	-	1
O170:H18	-	1	-	1
O8:H19	-	1	-	1
O130:H11	-	-	1	1
O76:H19	-	-	1	1
合計	76	18	35	129
割合(%)	58.9	14.0	27.1	

(数値部分の -:0)

チフス菌は、10月に40歳代男性、12月に10歳未満の男性からそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。両者とも推定感染地域は国外で、前者がインド、後者はバングラデシュであった。ファージ型は前者がE9、後者がDVSであった。

(c) 四類感染症の病原体検出状況

E型肝炎では、11例12検体が採取され、6例6検体からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、G3が4例、型別未確定が2例であった。ウイルスが検出された6例に海外渡航歴はなかった(表Ⅲ-1-16)。

A型肝炎では、1検体が採取されたが、A型肝炎ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-16)。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)では、4例7検体が採取されたが、SFTSウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-16)。

レジオネラ症では、肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は3株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、3件であった。

表Ⅲ-1-16 月別四類ウイルス検出状況(全数把握対象 令和3年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
E型肝炎	検体数		3		1	2	4		1	2		5	2	20
	E型肝炎		3		1	2	3			1			2	12
A型肝炎	検体数		2			2				1			1	6
	A型肝炎									1				1
重症熱性血小板減少症候群	検体数						1		1			5		7
	SFTS													

(d) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症では、10菌種、83株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)が分離された。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes* で32株(38.6%)、次いで *Enterobacter cloacae* complex が24株(28.9%)、*Klebsiella pneumoniae* が8株、*Escherichia coli*、*Citrobacter freundii*、*Enterobacter* sp.がそれぞれ4株、*Klebsiella oxytoca*、*Providencia stuartii*、*Serratia marcescens*がそれぞれ2株、*Serratia* sp.が1株の順であった。*Klebsiella*属は、42株(*K. aerogenes* 32株、*K. pneumoniae* 8株、*K. oxytoca* 2株)で全体の50.6%を占めていた。薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子(NDM型、KPC型、IMP型、VIM型、GES型、OXA-48型)6種、基質特

異性拡張型βラクタマーゼ(ESBL)遺伝子(TEM型、SHV型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group)5種、AmpC型βラクタマーゼ遺伝子(ACC型、CIT型、DHA型、EBC型、FOX型、MOX型)6種の計17種類について検査を実施した。カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)は、10株(12.0%)であった。このうちIMP型保有株は8株でCPEの80.0%を占めていた。このほかNDM型が2株分離された。CPEの菌種は、*K. oxytoca*、*E. cloacae* complex、*C. freundii*、*E. coli*の4菌種であった。ESBL遺伝子保有株は12株(14.5%)、AmpC型βラクタマーゼ遺伝子保有株は19株(22.9%)であった。

五類感染症全数把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表Ⅲ-1-17に示す。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)では、1例6検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

急性脳炎(脳症及び疑い例を含む)では、25例74検体が採取され、10例14検体からウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6及びヒトヘルペスウイルス7がそれぞれ3例3件、パレコウイルスが2例4件、ライノウイルスが2例3件、ムンプスウイルス(ワクチン株)が1件であった。また、複数の検体が採取された症例のうち1例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

劇症型溶血性レンサ球菌では、13株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は5株、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)8株であった。*S. pyogenes* は、3月、6月、7月、9月、11月に分離され、*emm*型は、*emm81.0*が2株、*emm1.0*、*emm9.0*、*emm128.7*がそれぞれ1株分離された。T型別では、T1型、T9型、T12型がそれぞれ1株、T型別不能が2株であった。SDSEの*emm*型は、stG485.0、stG6792.3がそれぞれ2株、stG10.0、stG166b.0、stG652.5、stG840.0がそれぞれ1株であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症由来のインフルエンザ菌(*Haemophilus influenzae*)は、7月と11月にそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。2株とも無莢膜型のインフルエンザ菌(Non-typeable *Haemophilus influenzae*: NTHi)であった。

侵襲性肺炎球菌感染症由来の肺炎球菌(*Streptococcus pneumoniae*)は、7月と10月にそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。血清型/シーケンスタイプは、10A/STnew、34/ST3116がそれぞれ1株であった。

播種性クリプトコックス症では、*Cryptococcus neoformans*が1月、2月、5月、10月に1株ずつ、計4株分離された。

先天性風しん症候群では、2例5検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

風しんでは、2例6検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

麻疹では、7例21検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

表Ⅲ-1-17 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象 令和3年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数	13	15	6	5	12	5	13	4	10	10	11	8	112	
	エンテロ D68										6			6	
急性脳炎 (四類以外)	検体数	10	12	3	5	9		6	2	7	1	11	8	74	
	パレコ								2	2				4	
	ライノ				2	1								3	
	ヒトヘルペス6	1									1		1	3	
	ヒトヘルペス7	1										2		3	
ムンプス												1	1		
風しん	検体数			3			3							6	
	風しん														
先天性風しん 症候群	検体数							3	2					5	
	風しん														
麻疹	検体数	3	3			3	2	4		3	3			21	
	麻疹														

(e) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

五類感染症定点把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表Ⅲ-1-18及びⅢ-1-19に示す。

インフルエンザでは、令和3年11月及び12月に合計3検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出は、AH3亜型が1件であった。インフルエンザウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが1件であった。

表Ⅲ-1-18 月別インフルエンザウイルス検出状況
(定点把握対象 令和3年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ	検体数											2	1	3	ライノ(1)
	インフルエンザ AH3												1	1	

RSウイルス感染症では、23検体が採取され、22件のRSウイルスが検出された。検出されたRSウイルスはRSV-Aが18件、RSV-Bが4件であった。このうち1検体でRSウイルス以外にアデノウイルス2型及びライノウイルスが重複して検出された。

咽頭結膜熱では、**6** 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス **2** 型が **3** 件であった。

感染性胃腸炎では、**37** 検体が採取され、ノロウイルスが **9** 件、サポウイルスが **3** 件、アストロウイルス及びロタウイルス **A** 群がそれぞれ **1** 件であった。検出されたノロウイルスはすべて **G2** であった。胃腸炎起因ウイルス以外ではライノウイルスが **2** 件検出された。このうち **1** 検体はノロウイルスと重複して検出された。この他に細菌では、*Campylobacter jejuni* が **1** 月、**10** 月、**12** 月にそれぞれ **1** 株、*Escherichia coli*(OUT:H-、*eae* 遺伝子保有)が **7** 月 **1** 株、*Salmonella* Litchfield、*Salmonella* Typhimurium、*Salmonella* Stanley が **8** 月にそれぞれ **1** 株の計 **7** 株が分離された。

手足口病では、**18** 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス **A6** 型が **2** 件、コクサッキーウイルス **A4** 型が **1** 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが **1** 件であった。

伝染性紅斑では、**1** 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

突発性発しんでは、**3** 検体が採取された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス **6** が **2** 件、ヒトヘルペスウイルス **7** が **1** 件であった。

ヘルパンギーナでは、**20** 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス **A4** 型が **3** 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが **2** 件、アデノウイルス **2** 型が **1** 件であった。

流行性角結膜炎では、**6** 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス **37** 型が **3** 件、アデノウイルス **64** 型が **1** 件であった。

無菌性髄膜炎では、**39** 例 **99** 検体が採取され、**13** 例 **15** 検体から **18** 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、水痘帯状疱疹しんウイルスが **4** 例 **5** 件、ヒトヘルペスウイルス **7** が **4** 例 **4** 件、ヒトヘルペスウイルス **6** が **3** 例 **3** 件、ライノウイルスが **2** 例 **2** 件、パレコウイルス、アデノウイルス **5** 型、単純ヘルペスウイルス **2** 型及びパラインフルエンザウイルス **3** 型がそれぞれ **1** 件であった。このうちヒトヘルペスウイルス **6**、ライノウイルス及びパレコウイルスが **1** 検体、アデノウイルス **5** 型及びパラインフルエンザウイルス **3** 型が **1** 検体から重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち **1** 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

表Ⅲ-1-19 月別五類ウイルス検出状況(定点把握対象 令和3年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計 213	その他のウイルス
		1月 5	2月 19	3月 10	4月 14	5月 9	6月 25	7月 42	8月 18	9月 12	10月 15	11月 22	12月 22		
RSウイルス 感染症	検体数						2	20	1					23	アデノ 2(1), ライノ(1)
	RS						1	20	1					22	
咽頭結膜熱	検体数		1	1			1				1		2	6	
	アデノ 2		1	1								1	3		
感染性胃腸炎	検体数	1		1	1	2	1	6	3	3	2	4	13	37	ライノ(2)
	ノロ				1		1					2	4	9	
	サボ												3	3	
	アストロ												1	1	
	ロタ (A)										1			1	
手足口病	検体数					3	5	4	1		2	1	2	18	パレコ(1)
	コクサッキー A4								1					1	
	コクサッキー A6											1	1	2	
伝染性紅斑	検体数							1						1	
	ヒトパルボ B19														
突発性発しん	検体数			1		1						1		3	
	ヒトヘルペス 6			1		1								2	
	ヒトヘルペス 7											1		1	
ヘルパンギーナ	検体数				1	1	3	4	6	2	1	2		20	パレコ(2), アデノ 2(1)
	コクサッキー A4								1		1	1		3	
流行性角結膜炎	検体数						1	1		2			2	6	
	アデノ 37									1			2	3	
	アデノ 64									1				1	
無菌性髄膜炎	検体数	4	18	7	12	2	12	6	7	5	9	14	3	99	
	パレコ			1										1	
	ライノ			1								1		2	
	アデノ 5							1						1	
	単純ヘルペス 2						1							1	
	水痘帯状疱疹				1				1		3			5	
	ヒトヘルペス 6			1	1							1		3	
	ヒトヘルペス 7		2								1	1		4	
パラインフルエンザ3								1					1		

(3) 新型コロナウイルス感染症

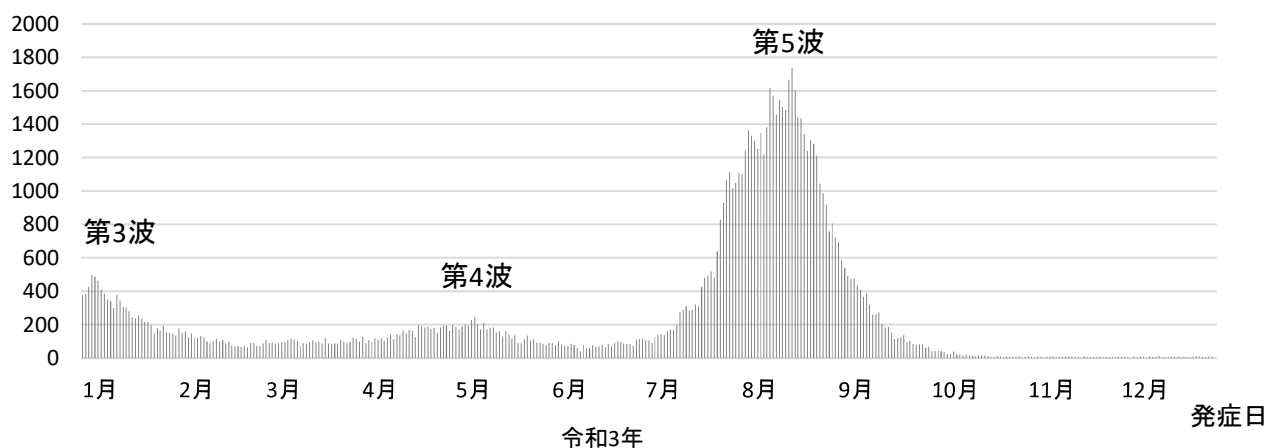
新型コロナウイルス感染症は、男性 56,055 人、女性 45,339 人の計 101,396 人(性別不明 2 人を含む)の届出があり、前年の 14,680 人より大幅に増加した。症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布した。年齢階級別では、20 歳代、40 歳代、30 歳代、50 歳代の順に多く、20 歳代から 50 歳代が 71,800 人で全体の 70.8%を占めた。性別では、男性 56,055 人、女性 45,339 人で、男性が 55.3%を占めた。類型別では、患者 90,545 人、無症状病原体保有者 9,422 人で、患者が全体の 89.3%を占めた(表Ⅲ-1-20)。患者の発生状況は 2020 年 12 月から 2021 年 2 月に第 3 波、4 月から 5 月に第 4 波が観察された。その後、7 月から患者数は急増し、日の発症者数のピークが 1,738 人(8 月 17 日)の第 5 波が観察された(図Ⅲ-1-2)。

表Ⅲ-1-20 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数(令和3年)

年齢階級	症例数	性別		類型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	不明
10歳未満	5,915	3,039	2,876	4,317	1,548	50
10歳代	11,081	5,847	5,234	9,720	1,252	109
20歳代	25,802	14,338	11,464	23,716	1,681	405
30歳代	16,319*	9,691	6,626	15,085*	997	237
40歳代	16,581	9,746	6,835	15,305	1,060	216
50歳代	13,098	7,215	5,883	12,000	931	167
60歳代	5,312	2,947	2,365	4,632	607	73
70歳代	4,034	2,015	2,019	3,296	673	65
80歳代	2,405	1,014	1,391	1,864	477	64
90歳代	807	195	612	582	185	40
100歳代	37	6	31	25	10	2
不明	5	2	3	3	1	1
合計	101,396	56,055	45,339	90,545	9,422	1,429
割合	100.0%	55.3%	44.7%	89.3%	9.3%	1.4%

*性別不明2人を含む

発症者数

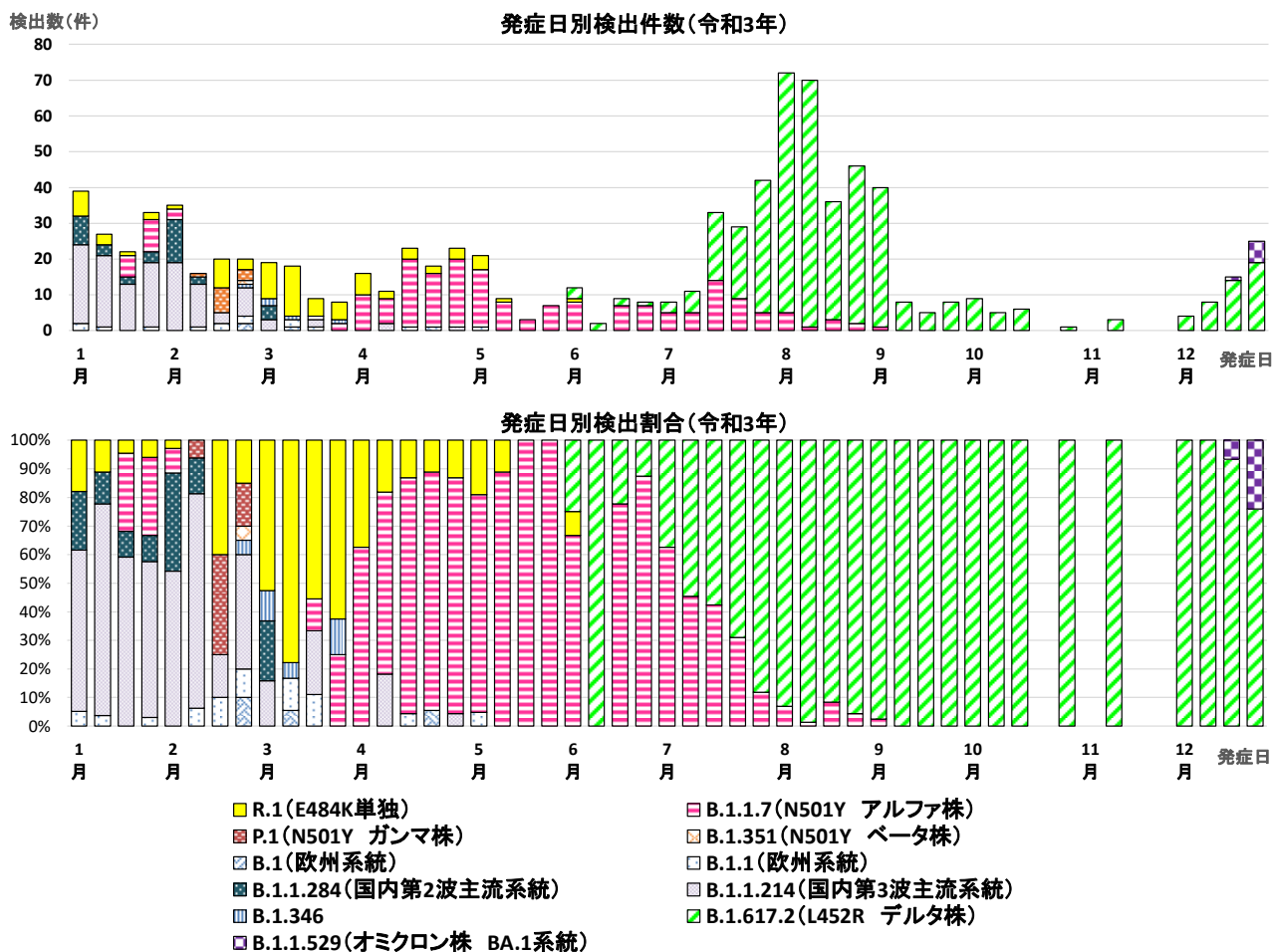


図Ⅲ-1-2 新型コロナウイルス感染症 発症者数(令和3年)

新型コロナウイルス感染症では、58,846例 58,886検体が採取され、5,052例 5,054件の新型コロナウイルスが検出された(一部陰性確認を含む)(表Ⅲ-1-21)。次世代シーケンサー(NGS)によるゲノム解析では、前年から続く第3波はR.1系統など多数の変異株が入り混じっていたが、B.1.1.214系統が主流であった。第4波では、4月に検出される割合が80%を超えたB.1.1.7系統(アルファ株)が主流であった。第5波では、8月に検出される割合が約90%となったB.1.617.2系統(デルタ株)が主流であった(図Ⅲ-1-3)。

表Ⅲ-1-21 月別新型コロナウイルス検出状況(令和3年)

臨床診断名	検出月 検体合計数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
		ウイルス	9,043	4,763	4,815	6,697	6,327	4,643	8,322	7,343	3,831	788	685	1,629
新型コロナウイルス感染症	検体数	9,043	4,763	4,815	6,697	6,327	4,643	8,322	7,343	3,831	788	685	1,629	58,886
	新型コロナ	1,151	515	468	567	493	206	446	839	298	42	4	25	5,054



図Ⅲ-1-3 新型コロナウイルス感染症 ゲノム解析結果(令和3年)